

季刊 GPW 通信

第 17 号 2021 年 初春



目次

| | | |
|--------------|-------|----|
| ごあいさつ | | P1 |
| イベント報告 | | P2 |
| お知らせ | | P4 |
| 自慢のガイドヘルパー紹介 | | P6 |
| トピック | | P6 |
| 会員報告・寄付を募ります | | P7 |
| 最後に | | P8 |

ごあいさつ

理事長 高橋和哉

明けましておめでとうございます。

2020 年は 1 月下旬に集団感染が発生したダイヤモンドプリンセス号に端を発し、中国・ヨーロッパ帰国者から感染が広まった新型コロナウイルスに翻弄された一年でした。

当法人は、視覚障害者の外出支援を事業の柱の一つとしていることもあり、大きな影響を受けました。3 月まで同行援護事業は順調に伸び続け、飛躍の 1 年になるはずでしたが、4 月からは我慢の 1 年になってしまいました。ただ、管理者である橋本をはじめとして職員・ガイドヘルパーの皆さんのおかげで大きな混乱もなく、事業は継続できています。

単独歩行をする視覚障害の方々には、ただでさえ神経を研ぎ澄まして歩いているところに社会的距離の確保や密を避けるなどの制約が生まれましたし、周りの声掛けが減ったことにより単独歩行に不自由を感じていると思われます。また、ガイドヘルパーを利用している方々は、利用を躊躇することが起こ

っています。

当法人としては、風評に紛らわされることなく正しく新型コロナウイルスに対応し、視覚障害者支援を継続していきますので今後ともよろしくお願いいたします。

これまでは、障害理解などの講師業務がメインであった「まちづくり事業」もふとしたきっかけで、本来のまちづくりに関わり始めました。この事業に関して、詳しく「お知らせ」で紹介したいと思います。

また、この法人の理事でもある高橋寛が第 57 回点字毎日文化賞を受賞したことで、毎日新聞の「ひと」欄で紹介されました。その記事を「トピック」に掲載します。

最後に、この通信とは別に、森佑太さんの「IT いろいろ」という視覚障害者のための IT 機器個人教室のお知らせと福祉有償運送アンサンプルのお知らせを皆さんにお届けします。音声 CD にもこれら二つのお知らせを収録しています。時間に余裕のある時に読むなり聞くなりしてください。よろしくお願いいたします。

イベント報告

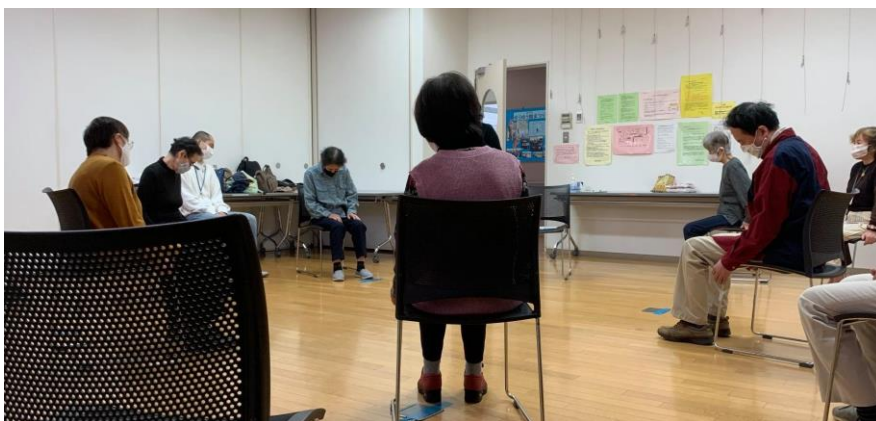
1. 高齢視覚障害者のストレッチ教室

第 1、第 3 火曜日の 10 時～11 時 45 分、ゆうゆう今川館で開催しています。毎回、8～9 名の視覚障害者の方々が参加しています。昨年は春から夏にかけてコロナの影響でゆうゆう今川館が閉館になったため長期間休止しました。7 月 7 日に再開してからは定期的に開催しています。

コロナに怯えるだけでは、心身ともに健康を害しますのでしっかりと予防をして開催しています。今は、すぎなみはつらつ体操も取り入れています。

3 密を防止するため一部のガイドヘルパーには部屋の外で待っていただくことになりました。参加者の健康づくりのためですので、この対応も致し方ないと考えています。

ゆうゆう今川館が開いている限りは開催を継続します。



居眠りでなく首のストレッチです。

2. 楽しくいちからフランス語

毎月第 2 土曜日の 13 時 30 分～15 時頃まで行っています。9 月から 11 月までの 3 か月間は、Wifi 環境のある有料の民間会議室を借りて教室を継続しました。収容人数は 42 名と広いスペースですので、レッスン中も休憩中もリラックスしてフランス語を学びました。

ZOOM を活用することで、会議室に来ることができない方々や二人のフランススピーカー（大阪のチヨコさん、エルブの責任者であるただこさん）も参加でき、また



ZOOM を使った教室風景

遠くフランス ナント在住のショントールにもお手伝いをお願いしています。彼女は、僕が 28 年前にケニアにいた時に旅行者としてケニアに遊びに来ていたフランスの方です。不思議な大切な縁です。12 月からエルブが再開しましたので、場所をエルブに移して、これからも楽しくいちからフランス語を継続します。

3. ドレミファン! (Do.Re.Mi.Fun!)

9 月と 11 月に開催しましたので 2 回分の報告です。

まずは、9 月 30 日(水)に開催したハーブとピアノの音楽会の報告です。

密を防いで、ホールの収容人員ギリギリの 25 名の方々参加して頂きハーブの音色に酔いしれました。藤岡葉子さんのハーブの先生 高山聖子さんの演奏を中心に 2 時間のコンサート&トークでした。



ハーブとピアノのアンサンブル

高山さんの演奏をメインにしながらも演者からの一方通行でなく双方向のやり取りを心掛けてくださり、皆さんも十分に楽しめたと思います。高山先生は、参加者の周りを小型のサウルハーブを演奏しながら練り歩き、演奏後は皆さんにハーブを触ってもらい、一人一人に音を出してもらいました。

高山さんの素晴らしい演奏を Youtube でいつでも聴くことができます。アイフォンやパソコンに縁のない方もこれを機会に IT に触れてみれば如何でしょうか。

Youtube のアドレスです。 <https://youtube.com/user/seikotakayama>

ホームページには、コンサート情報等も掲載しています。 <https://www.sekoharp.com>

11 月 30 日(月)は、藤岡葉子さんから報告します。

皆さんこんにちは！ドレミファン講師の藤岡葉子です。お陰さまでドレミファンも第 10 回を迎えることができました。今回のメインは「のど自慢デあなたが主演」です。参加者のうち 5 名の方に私のピアノ伴奏で独唱して頂きました。村田英雄ありパプリカありと選曲もユニークで素敵！そして皆さんお上手！まさに主演！



のど自慢の様子

今後も大切に続けて行きたいコーナーでした。

笑いに歌いにお喋りをしにちょっとドレミファンに寄ってみませんか？

以上、藤岡葉子さんからでした。

今年の 1 回目のドレミファンは、1 月 29 日(金)に開催予定です。

4. 社交ダンス

9 月から第 1・第 2 木曜日(13 時 15 分集合 15 時 15 分頃まで)に開催することになりました。一度も休まず楽しんでます。コロナ禍において社交ダンスをすることに懸念される方もおられますが、そもそも踊っている間はあまり会話しません。しかも検温、手指消毒、換気、マスクもしくはフェイスガードをしていますので、大きな問題はないと考えています。



基本の組み方を習う様子

始めた当初の 2 年前は、この会が成立すること自体が危ぶまれていましたが、ダンス公式審判員の持田先生が関わってくださるようになり、息を吹き返しました。

今では、数種類のワルツのステップを覚え、数分間は踊れるようになりました。

これからも毎月、第 1・第 2 木曜日の午後に高円寺障害者交流館で行います。興味のある方はどなたでも。

全てのイベント参加される方に下記のことをお願いいたします。

1. 当日、入室の際、体温チェックにご協力ください。
 2. 室内では、マスク着用での参加をお願いいたします。
- 換気、社会的距離に配慮いたしますのでご協力をお願いいたします。

日時・場所などの変更があった場合ご連絡いたしますので、全て申し込み登録をお願いしています。興味がある方はお気軽にお問合せ・お申込みください。

連絡先は 03-4285-9727 (GPW 事務所)です。お待ちしております。

お知らせ

・杉並区議会議員有志と「ユニバーサルデザイン(UD)のまちづくりと視覚障害 II」

ZOOM 会議の形式で、10 月 26 日(月)19 時から杉並区議会議員の方々と 3 回目の勉強会を開催しました。今回は、鉄道事業者がバリアフリー(BF)を進め、UD 化を図っていく様子を個別の事例を挙げながら紹介しました。その後で、杉並区がバリアフルな施設を作っている様子も少し紹介しました。

2000 年に入って、駅や公共施設などの個々の施設が BF 化を図る時代は過ぎ、現在は、それらを結ぶ一つのルートだけでなく複数ルートの BF、UD 化が進められようとしています。

BF、UD 化を推し進める主体は鉄道事業者でなく自治体です。自治体が音頭を取って鉄道事業者を引っ張る役割を担わないといけません。その自治体が鉄道事業者に大きく後れを取っている現実とその遅れに気付かない自治体の危機的な状況を区議会議員の皆さんにも共有して頂いたと思います。

・まちづくり事業が動き始めました。

本来、まちづくりはできる限り多くの方々に安心して移動してもらう空間を作り出すことなので、再開発などで街のありようが変わる時は、まず移動に制約のある方々に伝えて理解を得ること工程に入れ込むことが必要になります。しかし、残念なことに一部の自治体はその工程を省略したり、意味のない既成事実づくりをやっています。その結果、移動制約者が安心できないものや使えないものを作り上げることになります。お金の無駄遣いもさることながら、障害理解が進まない一因です。

自治体のあるべき姿を二つの自治体(国分寺市・調布市)の動きを通して紹介します。

JR 東日本国分寺駅北口改修工事

10 年来、点字ブロックの研究を一緒に進めている稲垣具志准教授(中央大学)から依頼を受け関わっている案件です。JR 国分寺駅の北口広場が大きく変貌します。工事完了後に視覚障害当事者に示すのではなく、計画時から当事者に知ってもらい専門家と当事者が協力して計画を作り上げていく手法をとっています。ただ、この役割を担う専門家がほとんどいないのが実情です。

具体的には、幅 80 cm、奥行き 1m 程度の盤上に北口広場計画を触知図で表現し、視覚障害当事者に計画を理解してもらい、国分寺市が行う計画の是非を問いかけて当事者の了解を得ました。

移動制約者である視覚障害者にこそ事前に計画を知ってもらうことが当然なのですが、これまでこのような手続きはないがしろにされてきました。

国分寺市、障害当事者、その間に入る専門家の 3 者が同じ方向を向いて、協力すれば素晴らしい駅前広場ができると確信しています。

京王線調布駅広場の視覚障害者誘導用ブロック敷設に関する基本設計

長年、調布市のバリアフリーに関わっている秋山哲男先生(中央大学)から依頼がありましたので、ありがたくお受けしました。

京王電鉄調布駅は駅舎ごと地下にもぐったことにより、調布市のど真ん中に 16,700 m²の広大な広場(南北方向約 160m、東西方向約 100m の長方形)が出現しました。広場の機能を維持しながら視覚障害者の安全な移動を確保するための点字ブロック敷設の基本計画です。

まず、調布市と我々でたたき台となる計画を作成し、その計画を視覚障害当事者が容易に理解できる

よう触知図を作成し、それを元に障害当事者(車いす利用者も加わりました)、調布市、我々の 3 者が



調布駅前広場触知図

認識を一致した上で、敷設計画を議論し最適解を見出し基本計画を作成しました。

まちづくりの第一人者の秋山先生が、当事者との話し合いの前に調布市と我々に伝えたことは、当事者の理解が得られるまで計画を練り直すということでした。簡単に言えば、今日一日では終わらないということでした。この繰り返しがユニバーサルデザインの肝となる部分です。計画を作成する者としてはこの過程を繰り返すことは避けたいので、できる限り丁寧に敷設計画の考え方を説明し、その考え方に沿って考えた計画を説明しました。幸い、1回で決着がつかしました。

そもそも、視覚障害の方々は今回のように丁寧な説明を受けることはなかったでしょうから、計画のよし悪し以前に、調布市、我々の姿勢に対して感謝の気持ちもあったような気がします。

まず、自治体、障害当事者、専門家の3者が同じ情報を得た上で、議論をし、計画の最適解を見つけることが無駄のない公共施設を作らない大事な過程だと実感しました。

自慢のガイドヘルパー紹介

今回は、令和2年9月から活躍してくださっている平成生まれ組の一人兒林美沙紀さんです。

よく利用者の皆さんから、兒林という漢字が難しく、メール読み上げ機能が「こばやし」と読んでくれないと聞きます。皆さんには申し訳ない気がしますが、会話のきっかけとなり、私はこの名前がとても気に入っています。小さい頃は勉強が出来ず、絵を描くこと・お芝居・海外の文化が好きで、大学時代はイギリスの芸術大学へ留学していました。卒業後は貿易の仕事をして、アメリカによく行きました。現在では、会社を辞めて起業し、ボイストレーナーと声優の仕事をしています。

私がガイドヘルパーのお仕事を始めたきっかけは、母にあります。私の母は山口県の特別支援学校の教師であったため、小さい頃から母が務める学校へ付いて行き、目の不自由な方と接する機会が多かったのです。自粛期間中に決心し、ガイドヘルパーの資格を取りました。

田舎で海の近いところに生まれたため、自然と魚が好きです。実家は下関にあるため、特に好きな食べ物はお寿司です。最近、アロマにはまっています。仕事合間や就寝前にリラックスでき、声が出やすくなります。先日利用者さんと音声ガイド付きの映画を観て、自身もすごく楽しみました。今後そのようなボランティア活動がしてみたいと考えています。



兒林美沙紀さん

トピック 理事の高橋実が点毎文化賞を受賞しました。

毎日新聞 2020年11月3日 朝刊 ひと より抜粋

全盲の記者として「点字毎日」で定年まで勤めた後、30年以上にわたって目の見えない後進の支援に尽力した功績が評価された。視覚障害者の福祉、文化などの分野で貢献した個人、団体を表彰する同賞受賞の知らせに「皆さんの支えが私の原動力になりました」と周りに感謝する。

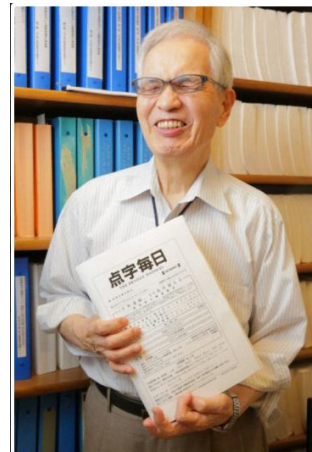
北海道出身。幼い頃に緑内障で失明した。点字の読み書きが得意だったが、旭川市の盲啞(もうあ)学校中等部に進むと、あん摩などの職業教育が中心で疑問を持った。2年の夏から不登校に。突破口を求めて入った岩手県の盲学校で、点字毎日の初代編集長らが全盲だったと知り、点字新聞記者を目指した。

1958年に日本大を卒業、60年から「点字毎日」で働き始めた。翌年には「視覚障害者の仲間の問題を解消したい」と当事者組織を結成。大学の門戸開放や学習支援などに奮闘した。

86年の定年退職後には支援活動に専念。他団体と連携し、91年に国家公務員試験の点字受験を認めさせた。

国に10年以上訴え続けた成果だ。熱意のある活動に全国から寄付が集まり、活動母体の社会福祉法人「視覚障害者支援総合センター」(東京都杉並区)設立に結実した。

残る課題は視覚障害者の職域開拓という。「これからは教育と福祉、雇用が一体化しないと視覚障害者の生活は安定しない」と言い切る。自著のタイトルにある「無謀と執念」の生き方を振り返り、若手の視覚障害者に「連帯と行動」への力強いエールを送る。文・佐木理人 写真・菱田諭士



点字毎日と高橋実

2020年度会員・賛助会員 報告

日頃より、GPWの活動にご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。2020年度会員は12月現在、正会員19名、賛助会員59名です。今年度もなかば終盤に差し掛かりましたが、2020年度の正会員、賛助会員を募っています。どうぞよろしくお願いいたします。

当法人は障害者も高齢者も住み慣れた地域で豊かな生活を送るための支援を行っています。一人でも多くの方々が支援に参加してくださることを願っています。

会員の方には、GPW通信を年に4回(季刊)定期的に発行し、活動報告をさせていただいております。「正会員」と「賛助会員」の2種類があります。「正会員」は、法律上の社員となり、会の構成メンバーとして総会での議決権を持つ等、会の運営に参加していただく方々です。また、「賛助会員」は、会の目的に賛同し賛助していただく方々で、いわば、会の活動を側面から応援をしていただく方々です。会員の区分により、年会費は次のとおりです。

◎ 正会員 5,000円

◎ 賛助会員 1口 3,000円

郵便振替 口座番号 00110-5-696178

口座名 NPO グローイングピープルズウィル

寄付を募っています。

2020年度は、聖明福祉後援会様、本間律子様、東恵子様、竹村郁様、社会福祉法人桜雲会様、

藤岡葉子様、土田爲子様、井山克子様、佐藤泰清様、高橋実様、堀長生様、川井田仁様、太田三奈子様、酒井久江様、須田希様、風呂田和枝様、市川純子様、平澤美代子様、窪田和泉様、匿名の皆さまから寄付を頂いています。ご支援をありがとうございました。

当法人では、高齢視覚障害者のためのストレッチ教室、音楽を媒体とした集いの場や視覚に障害があってもわかりやすいフランス語教室、料理教室などのイベントを行っています。福祉制度にない活動が実は利用者にとって非常に大切です。このような活動を安定的に継続し更に充実したものにしていきたいため、皆様のご理解とお力添えを必要としています。寄付をお考えの方のご連絡をお待ちします。

最後に

11月19日に、法政大学で社会福祉を学ぶ学生に話をさせていただくチャンス頂きました。この講座を受け持つ高良麻子教授が、昨年まで東京学芸大学(小金井市)に在籍し、杉並区民でもあることがきっかけです。この講座では、「社会変革に向けた活動計画」を策定することでして、彼らが計画を作成するためのアイデアの一つになればと、視覚障害者のための支援施設の多くが実は役に立っていないこととお話しし、この現状をどのように変えていくのかをお話ししました。

福祉の現場が魅力あることを伝えたかったのですが、果たして彼らにはどう映ったのでしょうか。

これからも誰もが自分の能力を発揮できるような環境を作り、誰もが気軽に支え、支えられる社会を目指していきたいと思っています。

この通信は、音声版でも発行しています。音声版を希望する方は、当法人までご連絡をお願いします。



スヤスヤ眠っている猫のシマちゃん

季刊 GPW 通信 第 17 号 (2021 年 初春号) 2021 年 1 月 1 日 発行

発行者 特定非営利活動法人グローイングピープルズウィル 理事長 高橋和哉

〒167-0042 東京都杉並区西荻北 2-2-16 オーシャンアート 202 号

URL: <http://gpw.sakura.ne.jp> Tel 03-4285-9727. Fax 03-4285-9727